



# わがまちの安心・安全活動

秩父市では、セーフコミュニティの国際認証取得に向けた取り組みを進めています。

今回は、すでに取り組まれているさまざまな活動と、セーフコミュニティ活動が、どのように関わっていくのかを具体的に見てみます。

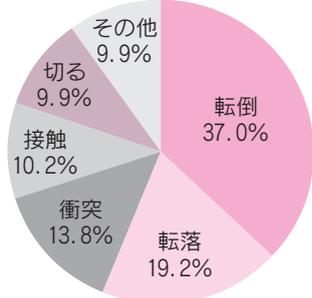
セーフコミュニティ活動との関わりについて従来の取り組みの中から、高齢者の方々の転倒リスクや交通安全対策を例に考えてみます。

## ① 高齢者の転倒予防教室

高齢になるほど、転倒によるケガの危険が高まるのが全国の統計からわかります。転倒すると骨折などの大ケガにつながることもあり、その後の生活にも大きく影響してしまう可能性もあります。

転倒してしまう大きな原因の

65歳以上のケガの原因  
(全国20病院調査結果)



出典：国民生活センター調査

転倒してしまう大きな原因の一つは筋力の低下であり、いかにして低下を防ぐかが課題となります。筋力の低下は、転倒リスクに加え、腰痛や膝痛、肩こりなどの全身の痛みや、バランス感覚の衰えにもつながります。市では、転倒リスクの高い方を含む運動機能の低下した高齢者を対象に「いきいきころばん教室」を行っています。また、40歳以上の方々を対象とした「はつらつ筋力アップ教室」も開催しています。さらには、公民館活動を通じて、「寿健康教室」等を開催することにより、筋力アップや運動機能の維持・向上に力を入れた活動を展開しているところです。

今後、リスクの高い高齢の方々はもちろんですが、多くの市民の皆さんの転倒リスクを軽減できるよう、セーフコミュニティの取り組みを通じて、活動の充実や意識啓発に努め、転倒によるケガの減少につなげていきます。

## ② 交通安全キャンペーン

不幸にも交通事故で命を失う方や大ケガをしてしまう方が後を絶ちません。特に、高齢の方々が原因となる交通事故は、全国的にも増加する傾向にあります。高齢の方々の事故を防ぐための活動は、今後、ますます重要になってくると考えられます。

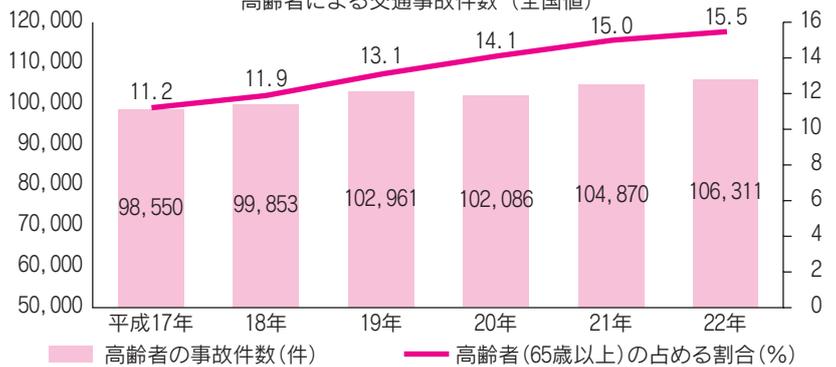
すでに、交通安全母の会の皆さんが、高齢免許保有者の自宅訪問をする活動を行っていたなど、積極的な取り組みも展開されています。

セーフコミュニティ活動では、「いつ・どこで・どのような人が事故にあっているのかを調査分析し、リスクの高い対象者や環境を特定していきます。交通事故件数をゼロにするとはかなり難しいことですが、警察や交通安全協会、交通安全母の会、行政など、さまざまな組織、団体が協力することで、



事故を減らしていくことができればと考えています。連携する組織・団体の間で情報を共有しながら、効果が目に見える仕組みづくりにつなげていきます。

高齢者による交通事故件数（全国値）



出典：平成23年版「高齢社会白書」(内閣府)

今後、調査分析のために、現在の秩父市の安全診断を各種統計資料やアンケート調査で明らかにしていきますので、皆さんのご協力をお願いします。  
地域政策課セーフコミュニティ担当 ☎22-2823